新刊紹介

川嶋昭二編・著：日本産コンブ類図鑑. カラー図版 8 pp＋214 pp. 1989.
北日本海洋センター　13,000円
川嶋昭二編・著：改訂普及版　日本産コンブ類図鑑. xxviii＋206 pp. 1993.
北日本海洋センター　4,800円

北海道大学理学部教授であった山田幸男先生が同大学をご退官になる前のある日，北海道の水産試験場でコンブの生態と増殖の研究を続けていた川嶋昭二さんに，先生が永年研究されていた数十葉のコンブ類の見事な図版をお示しになり，出版できるなら北海道昆布漁業の振興のために役立ててもらいたい旨の希望を申されました。川嶋さんは，余りに突然であり，またその責任の重大さを痛感しました。その後，ご希望に副うために勉強を続けていましたが，昭和50年7月，山田先生が京都のご自宅で逝去され，生前に先生のご意志に応えられなかったことを痛く後悔されました。

川嶋さんは，昭和60年3月函館水産試験場を最後に定年退職され，直ちに恩師の約束を果たすべく，学生時代に戻ったつもりでコンブ類の研究と資料の蒐集を本格的に再開しました。現役時代から，北海道全沿岸の浜回りを行い，実際に自分の手でコンブに触れ，目で確かめ，幼芽から成コンブに至るまでの生長段階の観察，生育場所による生長の変化，成体の子嚢斑の形成など，コンブ類の種の特性を徹底的に研究して来ました。そして退職後も，本州各地の海藻研究者からコンブ類の種々な資料を蒐集し，さらにコンブの製品や用途に至るまで，漁民や専門家から知識を聞き集めるなど，本書の出版に向けて全精力を傾注しました。そして遂に，平成元年8月念願の本書（初版）を印刷し，恩師のご霊前に捧げました。

本書は，コンブ科のコンブ属14種（1品種，1地方形），ミスヂコンブ属3種，トロロコンブ属2種，スジメ属1種，アナメ属2種（2品種），ネコアシコンブ属1種，キクイシコンブ属1種，クロシオメ属1種，アラメ属2種，カジメ属3種，アントクメ属1種と，アイヌワカメ科のアイヌワカメ属5種，ワカメ属3種（2品種）の2科13属39種（5品種1地方形）の62図版が掲載されている。各図版は種ごとに1頁大の墨で描かれ，生きたコンブを思わせる見事な単彩画であり，さらに別頁として，藻体の部位や，生長段階または生育地による形態の違いを示す附図（写真）があって，種の形態特性を知ることができる。

各種には，和名，学名，異名，分布，形態（種の掲載に相当），また生態・その他の特徴の項は著者の永年のコンブの研究のうん蓄が込められている。さらに，コンブ製品，用途，学名の語源の説明，図版に使用した標本の産地，採集日など，1頁から3.5頁に及ぶ詳細な記述がされている。

その他に，解説として，マコンブの生活環，コンブ目4科の特性が簡潔に記述されている。また，コンブ類の水平分布として，寒流系（寒海性）コンブ類と暖海系（暖海性）コンブ類の2分布系の説が明快に掲示され，種毎の分布図が載っている。

「改訂普及版」には，コンブ類の形態と用語についての解説，日本産コンブの分類研究小史，初版本では記述されなかったコンブ目4科のうち，ニセツルモ科のニセツルモとホソツルモについての附図とともに，北海道での最近の新産地や生活史型からコンブ目に所属することが書かれ，分類学者には興味がある。

本書は，海藻図鑑としても既存の書に比類のない大図鑑であり，コンブ漁業の振興と発展は勿論，コンブ類の分類学，生態学及び藻類学の発展に寄与するところが大である。

予期した通り，初版本（A4版，平成元年8月）はほとんど売り切れとなり，その「改訂普及版」（B5版，平成5年6月）が刊行されました。両書とも，コンブ漁業関係者は勿論，コンブ類研究者及び海藻研究者の必携の書であり，藻類学のすぐれた文献として高く評価されます。両書の英語版が出来れば，国際的にもさらに高い評価をうけると思います。

（福井県立大学　梅崎　勇）

新刊紹介

Maggs, C. A. & Hommersand, M. H.: Seaweeds of the British Isles. Volume 1 Rhodophyta. Part 3A Ceramiales. The Natural History Museum, London 1993. ISBN 0 11 310045 0. HMSO Publication Center (Fax order 071-873-8200). 35.00 pounds.

イギリス海藻誌 Seaweeds of the British Isles として企画された一連の出版物の第1巻紅藻植物のうち，これまで既刊の Part 1 (Introduction, Nemaliales, Gigartinales), Part 2A (Cryptonemiales, Palmariales, Rhodymeniales) に続いて Part 3A Ceramiales イギス目が今回発行された。この部分の著者は Christine A. Maggs と Max H. Hommersand である。

イギス目 Ceramiales とこの目を構成するイギス科 Ceramiaceae，コノハノリ科 Delesseriaceae，ダジア科 Dasyaceae，フジマツモ科 Rhodomelaceae の4科は明確に定義されているので，科のレベルでの問題点はない。科以下の連 Tribe などのランクについては主として Hommersand の意見にしたがい，種については Maggs が検討を加えて，本書が構成されている。

本書では35属123種を取り扱っている。新属として寄生藻の *Apoglossocolax* が記載された。それぞれの属と種について詳しい記載を与え，特徴を示す写真図版も全種について示され，さらにタイプに関する情報も加えてある。種レベルでの新しい知見もあり，命名上の問題もいくつか論じられ，その結果，新名や新組み合わせも提案されている。*Ceramium cimbricum* と *C. fasitigiramosum* が同一種であるという見解は，日本の海藻相にも影響がある。また，日本のハネグサの学名を *Pterosiphonia pinnulata* であるとしていることも注目される。

コノハノリ科に関しては，属レベルで重要なプロカルプの特徴や四分胞子嚢の切り出され方など，写真では明確に示し得ない点について線画を入れてあればよいなどの不満が残る。全体としては高い水準の研究成果である。巻末には術語の解説も加えられて，理解を助けている。

海藻についても他の植物群と同様に，ヨーロッパにおいて分類学的研究が先に開始され，日本の海藻学研究の初期には多くの種をヨーロッパで記載されたものに当てたことがある。このため，太平洋と大西洋に共通種があるとされ，詳しい研究の結果，別の物であるという結論になったものがいくつもある。本書で取り上げられた35属の大部分の属のタイプ種がイギリスに産することからしても，属レベル，種レベルでの比較のためにヨーロッパの種についての知見が不可欠な場合が多いので，イギリスの海藻相についてこのような企画が進んでいるのはわれわれにとっても有り難いことで，残りの部分も早く出版されることを期待している。

（北大・理・生　吉田忠生）